

六 青年よ精進せよ

青年よ。我が愛する青年よ。私は君たちを見ること、接することがこの上なく嬉しい。この心を仏天のあはれみましましてか、来る講習も来る講習も若人によつて満たされてある。初めて我が光明団の講習に来た人は、あまりに青年によつて満されているのに驚かれるようである。ああ、青年。君たちを思うと、熱いものの胸に満つるを感ずる。

一、青年よ精進せよ。時を惜しみ、体力生命力を濫費することなく精進せよ。

「少年老ヒ易ク学成リ難シ 一寸ノ光陰軽ンズ不可 未ダ醒メズ池塘春草ノ夢 階前ノ梧葉已ニ秋声。」

我已に五十有四、今静かに秋声を聞くに当つて、春草の夢若々しき若人に向つて「青年よ、精進せよ」と全身全霊を声になして叫びつゞける。

何故に若き日を怠げ、若き日を惜んで精進しないのか。今は父あり母あり兄弟あり、だらしなき不精進の言い訳をして、責を他人に負わせていることも出来よう。しかし何時までも親はいない。やがて壮年となり老年となつた時、因果業報漸くその身に現われるに至つて悔いを千載に残すであろう。

青年よ、怠を戒めて精進せよ。青年の美しきは精進にある。不精進の者には必ず幾多の不善を具するであろう。

二、青年よ強くなれ。牛の如く、象の如く、強くなれ。真に強いとは、一道を生きぬくことである。性格の弱さ、悲しむ勿れ。性格の強さ必ずしも誇るに足らず。「念願は人格を決定す。継続は力なり。」真の強さは正しい念願を貫くにある。怒つて腕力をふるうが如きは弱者の至れるものである。悪友の誘惑によつて墮落するが如きほ弱者の標本である。青年よ強くなれ。大きくなれ。

三、青年よ。「物腰を低く、気魄を大きく」持て。

謙虚なる者は必ず仰いで大空を見る。高慢不遜なる者は必ず小事に囚はれて大成することなし。至れる謙虚は金剛の信念と共にあり、金剛の信念は至れる謙虚と共にあり。金剛の信念なき謙虚は謙虚にあらずして卑屈であり、謙虚なき金剛の信念は信念にあらずして我執我慢に外ならず。

青年よ気魄を大きく持て。君等の中からは文化日本、道義日本の建設者が出現しなくてはならぬ。この民族の苦悩の中から、地球を七巻きするような大いなる気魄の人が生れなくてはならない。

四、青年よ名利を越えよ。我等は決して名を求めて動いてはならない。何も名高くなる必要はない。人に知られることを要しない。英雄を求めず豪傑を必要とせず。唯、汝自身を充実して一道にあれ。重ねていう。「念仏して自己を充実し国土の底に埋るゝを以つて喜びとなすべし。」

五、青年よ正直なれ。大きくなりたいなら正直なれ。人に裏切られても正直なれ。艱難に当つても、逆境にあつても、正直を失ふなかれ。正直とは真直に歩むことである。「真つすぐに真つすぐに。唯真つすぐに。難関にぶち当れば更に真つすぐに。念佛道を真つすぐに。」

六、青年よ。善き友と良き師長とを得て、常に光の中を行け。善友善知識なくして向上せる一人の人なく、悪友悪知識なくして墮落せる一人の人なし。蓮師の御一代聞書にいわく「その人を知らんと思わゞ、その友を見よといえり。善人の敵とはなるとも悪人を友とすることなかれといふ事あり」と。

七、青年よ。金剛の信心に生きて世の光となれ、一生聞法精進不退転の行者となれ。光と喜と敬と愛とは君の上にあるであろう